

私たちの訪問介護の挑戦 — 在宅介護を諦めさせない —

2026年3月2日
株式会社福祉の里
取締役事業本部本部長
松浦 友美



自己紹介

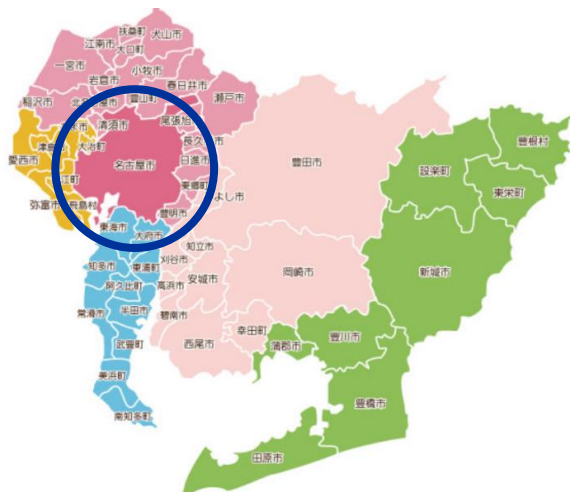
- 前職：不動産営業（介護未経験）
- 1997年 福祉の里入社
- 訪問入浴 → 福祉用具
- 訪問介護（サ責・管理者）
- 在宅ケアマネジャー
- 訪問介護13拠点を統括
- 現在：事業本部
 - └ 全サービス統括 / 採用 / 働きやすい環境づくり



会社紹介

介護のお家族を支えます

- 株式会社福祉の里 (本社：愛知県北名古屋市)
- 昭和58年設立
- 代表取締役社長 矢吹華絵
- 愛知県19拠点、岐阜県4拠点、大阪府1拠点にて事業を展開



会社紹介

●在宅サービス

○訪問入浴介護、訪問介護、訪問看護

○居宅介護支援、福祉用具貸与、特定福祉用具販売、短期入所介護（ショートステイ）

●地域密着型サービス

○認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、小規模多機能型居宅介護

○看護小規模多機能型居宅介護（2026.3開設）

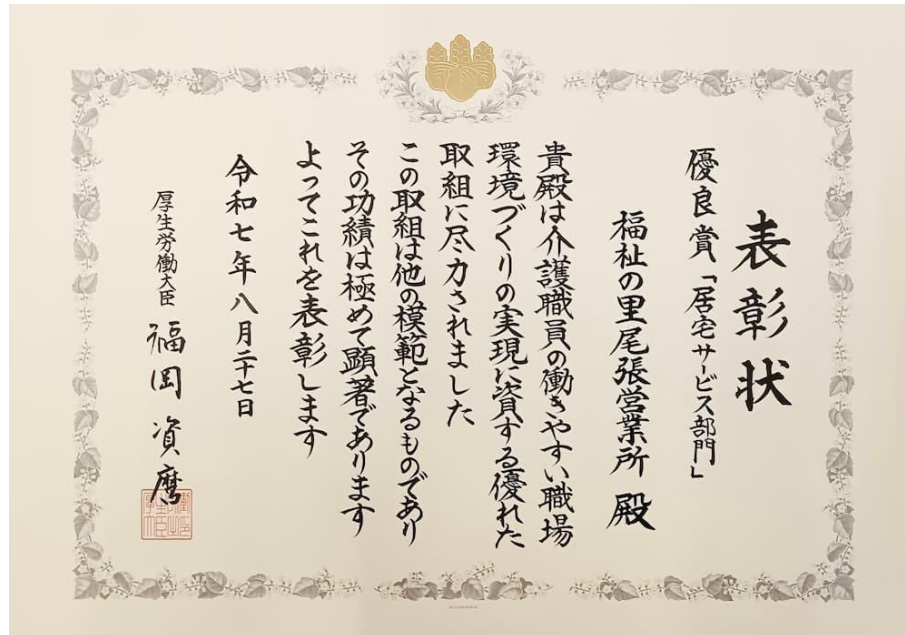
●市町村委託

○地域包括支援センター



会社紹介

令和7年度 介護職員の働きやすい職場環境づくり 厚生労働大臣表彰 優良賞を受賞



記録システム導入による
業務効率化

仕事と育児・介護の
両立支援29施策

科学的介護の推進による
やりがい創出

本日本話すること

1.これまでの取り組み

2.これからの課題・展望

私たちの目指す訪問介護

- 在宅で暮らしたい
その当たり前の願いを、あきらめてほしくない
- 病院でも施設でも、
24時間ずっとそばにいられるわけではない
- 私たちは、在宅でも
必要な時に、必要なケアを届ける存在でありたい



忙しさだけでは人は守れない

- 「断らない」姿勢で**全依頼を受け入れ**
- 生活援助・総合事業が中心、**長時間ケア**が多数
- 本当に**必要な方へサービスが届きにくい**状況

定着せず
離職率が高い
(25%)

ギリギリの
シフト

給与改善
できない

赤字転落の
危機

誇りがある、だから変わった

- 総合事業や生活援助も
地域を支える大切な介護という誇り
- シフトが埋まる日々に、**充実感と達成感**
- 忙しさの中にも、**やりがい**を感じられる現場



断らない勇気から、選ぶ勇気へ

- 断らないから**必要な支援へ集中**する意識転換
- 特定事業所加算**は、介護福祉士の専門性を国が評価する制度
- 福祉の里の**使命**は在宅サービスを諦めさせない
- 真のニーズ**を見極め、的確な支援へつなげる

地域を支える介護のプロとしての覚悟

取り組み内容

- 特定事業所加算Iを取得し、専門性のあるケアへ
- 身体介護の質を高め、必要なケアへシフト
- 生産性向上と業務のムダ削減
- DX活用でスタッフの負担を軽減

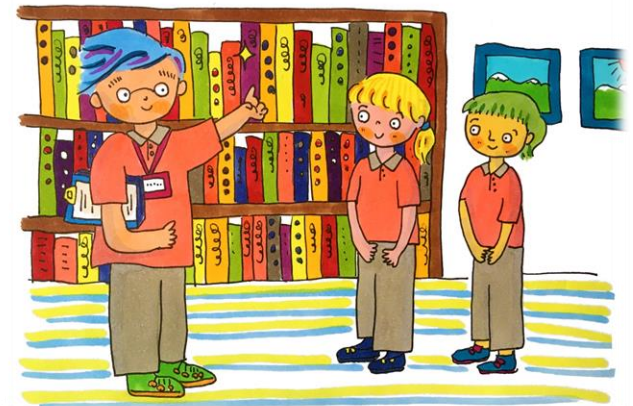


量から質へ
ケアの未来を見据えた挑戦

加算取得と業務改善の歩み

- 2016年 特定事業所加算IIを取得

- アナログ運用で現場が大変さを実感
- 半年後にソフト導入



- 2023年 特定事業所加算Iを取得

- 身体介護への対応をさらに強化
- 総合事業は地域の状況に応じて必要量を調整

生産性向上

●記録のDX化

- スタッフ全員にスマホの貸与
- シフトは各自スマホで確認
- 複数回訪問はケア終了後、すぐに確認可能

●研修のDX化

- 全員の研修計画の管理を自動化
- スマホやタブレットからどこでも受講可能
- ヘルパーの受講状況は、管理者アカウントで把握

取り組み成果 — 生産性向上 —

具体的な内容	取組前 (2017年1月)	取組後 (2025年1月)
ヘルパーの訪問件数 (1人あたり)	6.58件/日	7.36件/日
ヘルパー稼働率	68.00%	72.40%
サービス提供責任者の現場稼働率	77.40%	47.30%
サービス提供責任者の残業時間 (1人あたり)	31.4時間/月	4.65時間/月
サービス提供責任者の休日日数 (1人あたり)	6.78日/月	10.0日/月
介護保険サービスに占める身体介護比率	54.30%	76.50%

数字が語る、現場が変わった

- 管理者が、
数字を読む・根拠に基づく運営を重視するように
- スタッフ全体が**専門性と効率の両立**
を意識するように



感覚から根拠へ

両立支援 — 働く環境の改善 —

職員からのハッピーアンケートを元に 29個の取り組みを実施

- 企業型保育園の設置、保育料補助制度の導入
- ノーリフティングケア推進
- 有給取得キャンペーン
- ディズニーランド研修



取り組み成果 — 両立支援 —

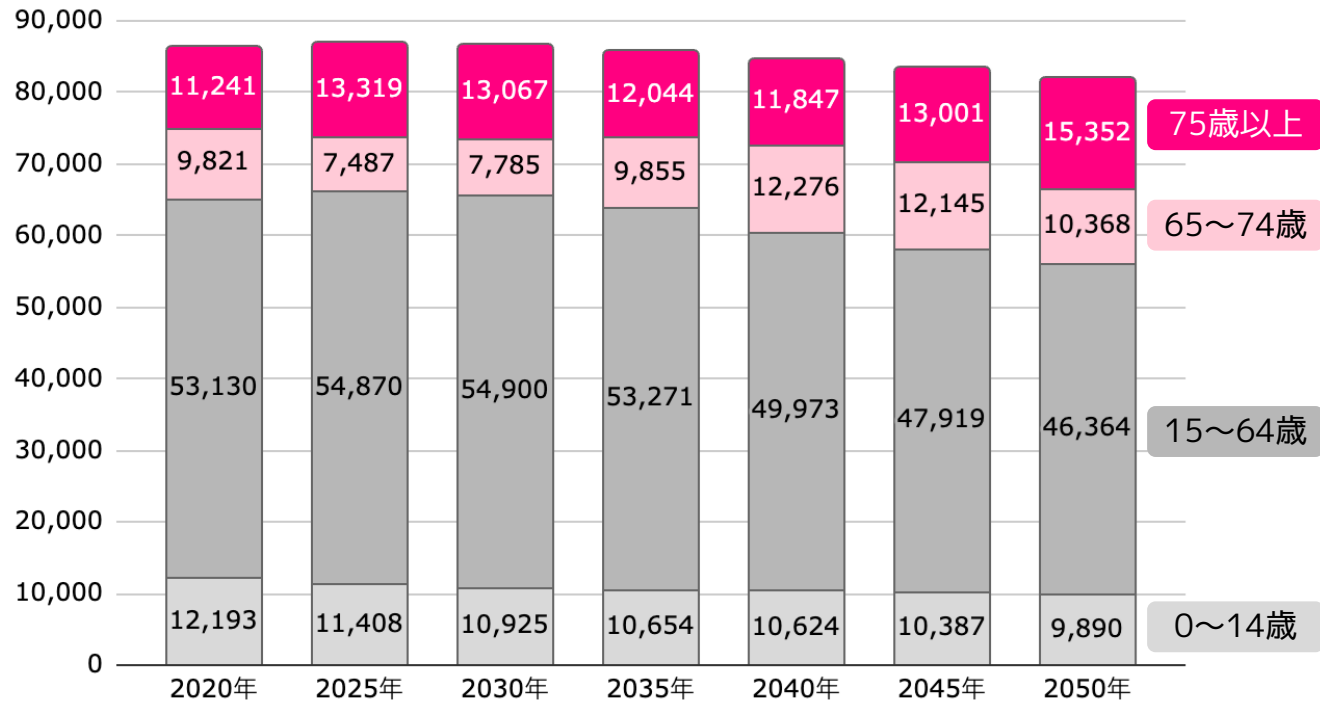
具体的な内容	取組前 (2017年1月)	取組後 (2025年1月)
離職率	25%	0%
有給取得率	21.80%	70.40%
有給休暇平均取得日数 (1人あたり)	3.1日/年	13.1日/年
事業所の平均勤続年数	7年5カ月	15年7カ月
事業所のスタッフ数 (常勤換算)	7.67人	12.63人
就業規則・働き方に関する規定・規則の種類	5種類	13種類

本日お話しすること

1.これまでの取り組み

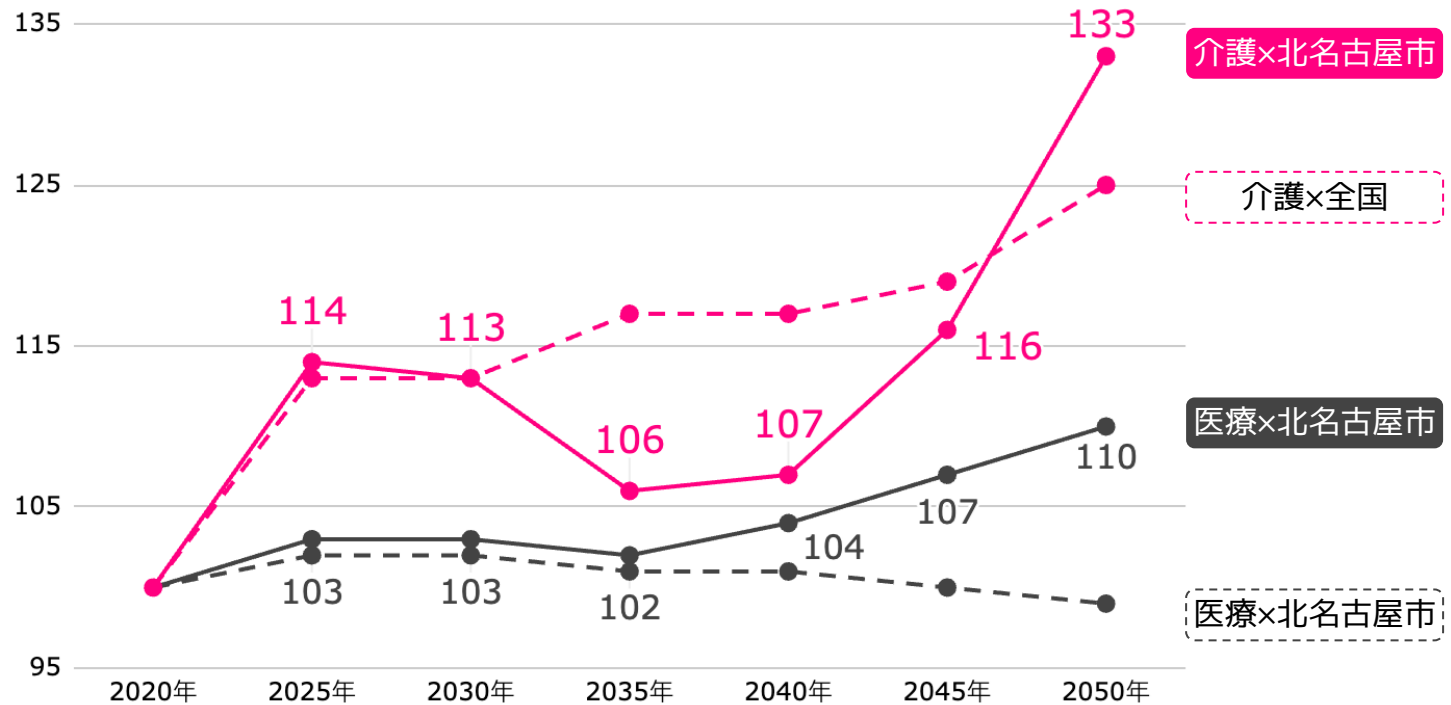
2.これからの課題・展望

北名古屋市の将来推計人口



**人口は減るが、高齢者は増える
特に後期高齢者が爆発的に増える**

北名古屋市の将来像



●医療需要：2050年に +10%
微増だが、医療供給不足で逼迫感は強まる

●介護需要：2050年に +32.7%
訪問・通所・施設・在宅医療すべてで受け皿不足が深刻化

北名古屋市の課題

- 1.後期高齢者の急増
- 2.生産年齢人口の減少
- 3.慢性期・生活習慣病患者の増加
- 4.施設入所需要の増加・供給は全国平均以下

在宅シフトを強制される地域構造

介護需要爆発 × 医療資源不足

- 在宅で入院と同じ安心を
- 在宅で施設入所と同じ安心も
- 本人のどこで暮らしたいかを最優先に
- その思いを実現するために、
訪問看護 × 訪問介護の融合を推進



より重度な方への対応を強化し、**看介護**の会社へ

今後も、地域のニーズに応えながら

- より重度な方への対応を強化
- 看護と介護の融合を推進
- 専門性と効率の両立を追求

在宅をあきらめさせない介護の未来へ

WE
ARE 
FUKUSHINO SATO!

ご清聴ありがとうございました

Instagram・Xでは、介護の現場での“あるある”や気づきを発信しています。ぜひフォローして、日々の情報もチェックしていただけますと幸いです。



介護あるある配信中!

Instagram X



_FUKUSHINOSATO

1 コマイラストや

6 コマ漫画など配信しています。

